

事業計画書

事業名	「認知症に備える」為の啓発活動事業
団体名	介護・認知症の家族と歩む会・松戸

<p>取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）</p>	<p>① 急速な超高齢社会に於いて、介護を必要とする人の増加、特に2012年認知症患者は450万人、軽度認知障害の人が400万人と言われ、2025年には認知症患者は700万人、軽度認知障害の人が600万人にと報告されています。 (厚生労働省研究班) 10年間で1.5倍の増加が予測されています。 松戸市では、平成12年、高齢者の居る世帯22.3%、高齢者夫婦世帯4.5%、独居高齢者4.7% 平成22年、高齢者の居る世帯32.3%、高齢者夫婦世帯8.2% 独居高齢者8.3% (第7期松戸高齢者保健計画) と増加しています。</p> <p>② 我々の活動は、認知症当事者・家族を対象として、認知症は病気だという事、病気の正しい知識と対応を普及することが第一の課題と考えています。なぜならば、最初に病気に気づかなければならない家族間で、認知症の知識が無かったり、間違た知識に基く思い込みで、してはならない対応(特ことばの掛け方)をすることで、症状を重症化することが多く、介護する人も苦しみ、される人も苦しむ結果になり、加えて症状の改善が難しくなる。</p> <p>③ 認知症を予防することは当然ながら大切なことですが、それでも認知症は発症します。しかしながら、いざ発症した時に多くの人がどのように対処すれば良いか分からず、先入観・思い込みの介護をしてしまっています。</p> <p>認知症の症状は、その人の生活歴や成育歴(潜在意識)等が大きく関わってきます。それだけに家族間の事を知っているか、知る事に努めることが、「備える」こととなります。介護される人だけでなく、介護する人の成育歴・生活歴も大きく関わってきます。取り巻く家族が、直接介護する人の成育歴等の理解も「備える」重要なポイントです。これを軽視すると、介護者による虐待が起こります。 介護される人の歴史(私達はこれを 我歴と名付けています)を補えるのは家族の歴史しかありません。</p>
<p>事業の目的</p>	<p>認知症の正しい知識の普及、啓発することにより認知症になっても、安心して暮らし続けられるようにすることが、この事業の目的です。 その為に私達は介護体験者特に認知症家族当事者としての悩み、苦しみを一個人・家族のものとしせず、より広く多くの方々に知っていただくことで、認知症になった時にも慌てることなく、介護する人も介護される人も笑顔でいられることを目指しています。それが私達の考える、認知症に「備える」ための啓発活動事業の最終目標です。</p>

<p>事業内容</p>	<p>1 事業内容</p> <p>1) 「認知症を学ぶ」講座・ワークショップを4つのテーマで実施</p> <p>○認知症ってどんな病気 …当事者の声を踏まえた認知症についての正しい理解を広める</p> <p>○認知症の症状は改善できる …これまでの事例を元に、家族や当事者の諦めからの解放を目指す</p> <p>○家族の「ことば」の力 …家族間のコミュニケーションの重要性について共感・理解を目指す</p> <p>○ときめいて生きる …家族が抱きがちな認知症に対する印象、後ろ向きで否定的な言葉、出来ないを出来るに、置き換えることを学び、当事者の自助・自立・社会参加の促進等に寄与する。</p> <p>2) 「当事者、家族による交流会・相談会」 ワークショップは事実上、交流会・相談会的な内容になる事が多く、ワークショップ終了後、個々の相談は2時間程度相談時間。 深刻な事案は別室又は後日行う、現在も個別相談継続</p> <p>3) 活動地域を松戸地区、新松戸地区、常盤平地区、3か所に限定する。 ・1回の講座・交流会等は参加者を原則15名程度とする。 ・講座の主な対象者</p> <p style="margin-left: 40px;">1=認知症の介護者及び当事者、家族 2=身内・近所の人 3=地域町会・商店街等</p> <p style="margin-left: 80px;">3=地域町会・商店街等は提携し共催開催を目指す。</p> <p><広報活動></p> <p>○講座・ワークショップ・交流会等の広報活動は、市広報紙、地域のミニコミ紙への掲載、会場周辺住宅への2000枚程度のポスティングとハガキ等に依る案内を行う。</p> <p>○市関連施設20ヶ所程度へA4チラシ配布・A3ポスター掲示を行う。</p> <p>○フリーマーケット等に参加しパンフレットの配布を行う。</p>
-------------	--

2 スケジュール

具体的な取り組み		実施体制、対象、場所など
4月	A 講座「認知症を学ぶ」	市民センター 対象 1, 2
5月	C ワークショップ 「ときめいて生きる」	市民センター 対象 1, 2
6月	A 講座「認知症を学ぶ」	市民センター 対象 1, 2
7月	B ワークショップ 「家族のことばの力」	市民センター 対象 1, 2 学生
8月	A 講座「認知症を学ぶ」	市民センター 対象 1, 2 学生
9月	B ワークショップ 「家族のことばの力」	市民センター 対象 1, 2
10月	A 講座「認知症を学ぶ」	市民センター 対象 1, 2
11月	C ワークショップ 「ときめいて生きる」	市民センター 対象 1, 2
12月	A 講座「認知症を学ぶ」	市民センター 対象 1, 2
1月	B ワークショップ 「家族のことばの力」	市民センター 対象 1, 2
2月	A 講座「認知症を学ぶ」	市民センター 対象 1, 2
3月	C ワークショップ 「ときめいて生きる」	市民センター 対象 1, 2 学生

A 講座「認知症を学ぶ」は2回/月講座（2週）

～認知症でどんな病気～認知症の症状は改善する

B ワークショップ「家族のことばの力」

C ワークショップ「ときめいて生きる」

実施体制 講座 世話人2名 ボランティア1名

ワークショップ 世話人3名

<p>事業からステップアップする部分</p> <p>※ステップアップ助成のみ</p>	
<p>事業の目標</p>	<p>講座12回 ワークショップ等6回の開催回数については、必ずクリアを目指します。</p> <p>学生～三世代の協働～の参加者の確保</p> <p>参加者の中から、地域での情報発信・収集の協力者として、正しい知識・対応の仕方等が出来る、支援会員の10名確保を目指します。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>積極的に関係部署に声掛けをして、地域町会・自治会等に加え、商店街等と連携し、認知症講座やワークショップを開催を定期的に行いたい。</p> <p>来年度は、他の団体と一緒に講座等を3回の開催を模索しています。</p> <p>受講者の中から、サークル（子育て～介護まで）やボランティアグループの立ち上げに協力したい。</p>

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

科目		金額	積算内訳
団体	本部事業費	¥ 10,000	拠出金
	支援会費	¥ 5,000	1,000円×5人 支援会員
	事業収入	¥ 30,000	500円×60人(参加料)
	協賛金	¥ 20,000	(フリーマーケット・物品販売等より)
	自己資金の合計額 (A)	¥ 65,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 165,000	

【支出】

科目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 15,000	外部講師 3000円×5人
	印刷製本費	¥ 25,000	広報チラシ・ポスター・パンフ印刷代 50円/1000枚 A3カラー20円/1枚
	消耗品費	¥ 38,000	チラシ・資料用紙A4 50,000枚 A3・1000枚 A4・300円/500枚 A3・800円/100枚
	通信費	¥ 40,000	ハガキ400枚 切手200枚 封筒
	使用料	¥ 30,000	会場使用料 300円/h ×4 ×25
		対象経費の合計 (D)	¥ 148,000
その他経費	交通費	¥ 15,000	500円×20人 ポスティング時 駐車料5000円
	雑費	¥ 2,000	
		¥ 17,000	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 165,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が、対象となる経費 (D) 欄の90%以内であること。
- 2 自己資金 (A) 欄が、「対象経費 (D) 欄の10%以上」であること。
- 3 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。